

学校の Google アカウントでテストを 生成するスプレッドシートを利用するには…

0. 学校のアカウントで利用したいのに…

テストを作るための Script が書かれたスプレッドシートを、学校の Google ID で利用すると、「Script の安全が確認されていない…」などの警告が出て不安になることがあります。2020 年に導入された一人一台端末で Google Workplace for Education を併せて導入した教育委員会や学校では、SNS やメールなどで不測の事態が起こらないように、ID のセキュリティレベルを上げて、外部との連携について管理を厳しめにしているケースが目立ちます。

こういった環境下で今回のスプレッドシートを利用しようとする、学校の ID 管理者にお願いして、提供元の Google ID を信頼できるホワイトリストに加えてもらうなどの作業が必要になるようです。

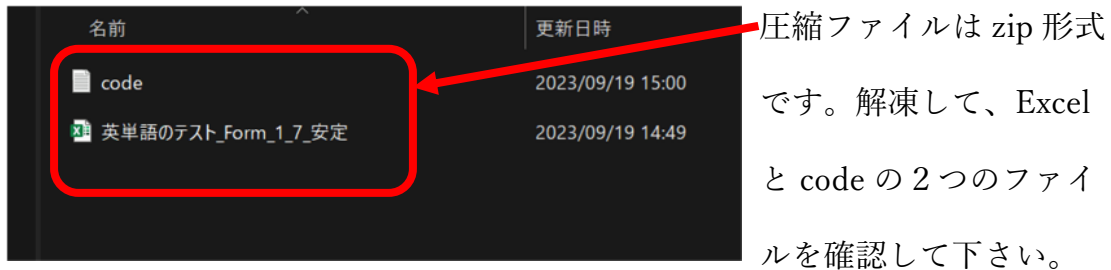
1. 管理者への依頼をせずに使えたら…

もっと簡単に利用を開始できる方法はないか、いろいろと試しました。

そして、①Script を埋め込んだスプレッドシートを Excel 形式でダウンロードして、②利用したい Google ID で新しいスプレッドシートにその Excel を読み込み、③そこに Script をコピペして埋め込むと、難なく利用が開始できることがわかりました。そこで本 Web では、スプレッドシートからダウンロードした Excel と Script のコードを収めたテキストファイルを使って、読者の皆さんが利用しているお好きな Google ID で、テストを生成するスプレッドシートが利用できるように、データと情報を提供したいと思います。

2. 利用開始までの手順

- ① 当サイトの、「英単語のテストの自動生成」という圧縮ファイルをダウンロードし、自分のパソコンの適当なドライブに解凍します。

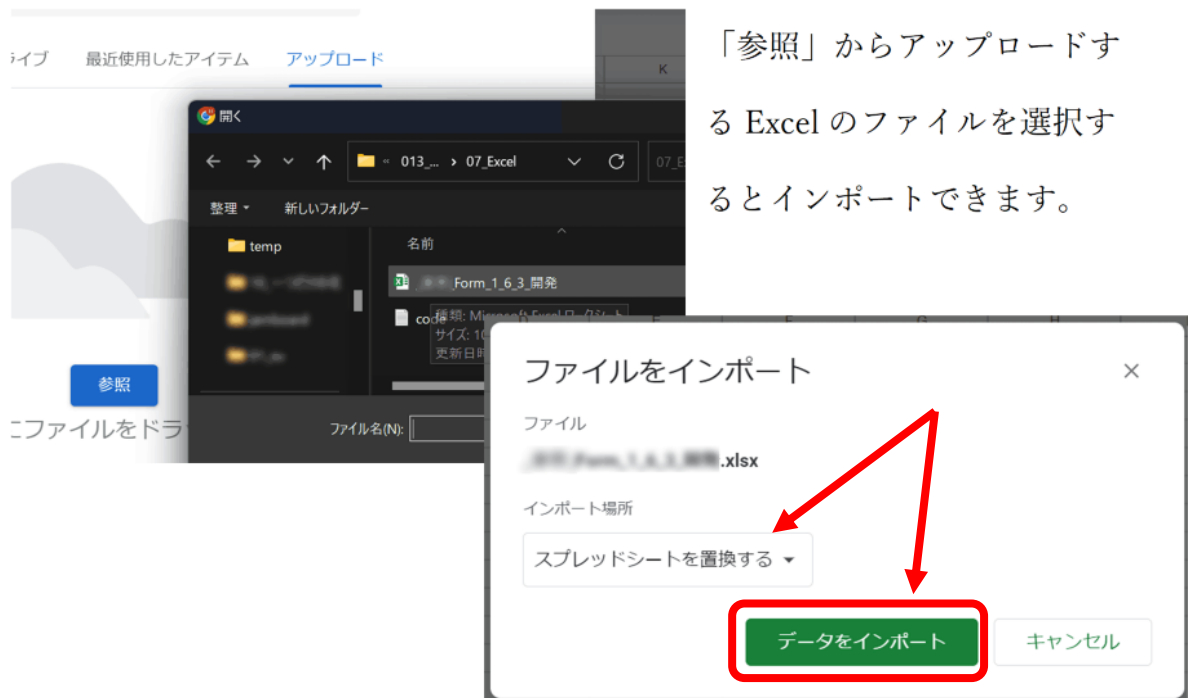


- ② 利用したい Google ID で Google for Education にログインし、アプリアイコンからスプレッドシートを開きます。そして、「新しいスプレッドシートを作成」します。



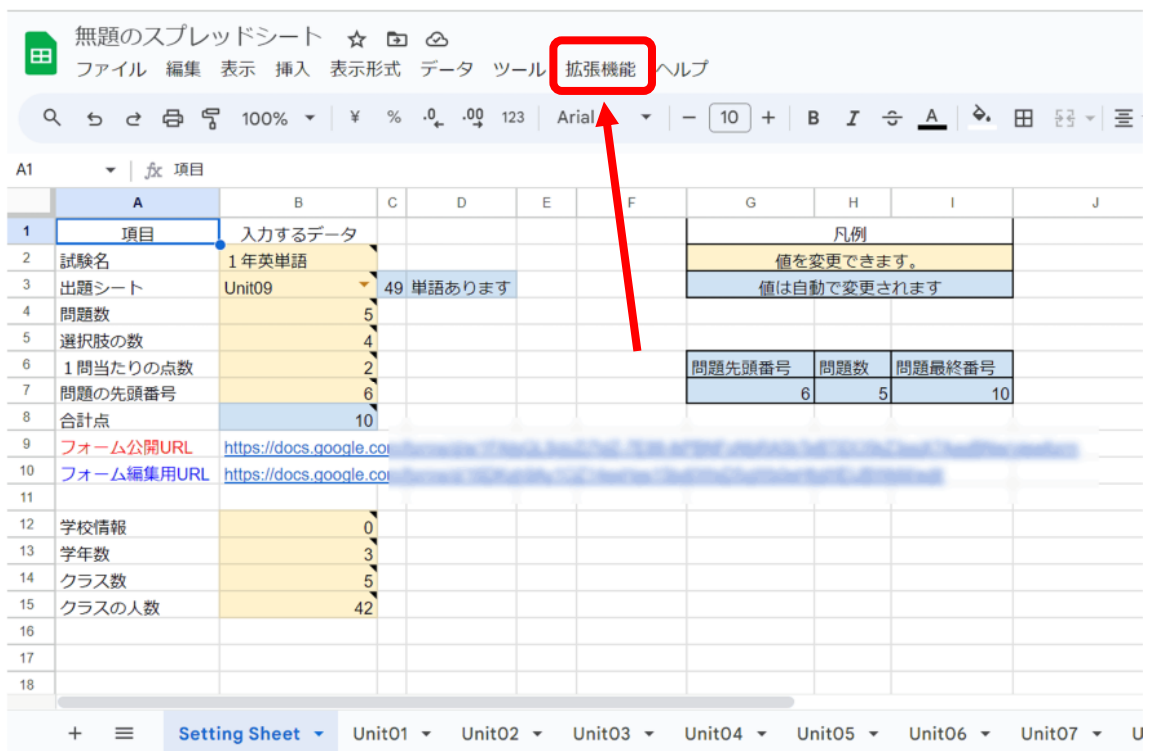
- ③ 新しいスプレッドシートを開いたら、「ファイル」から「インポート」を選び、先ほど解凍した Excel のファイルをインポートします。





④ Excel をスプレッドシートに読み込むと、下のような画面になります。

ここから「拡張機能」に Script を埋め込んでいきます。

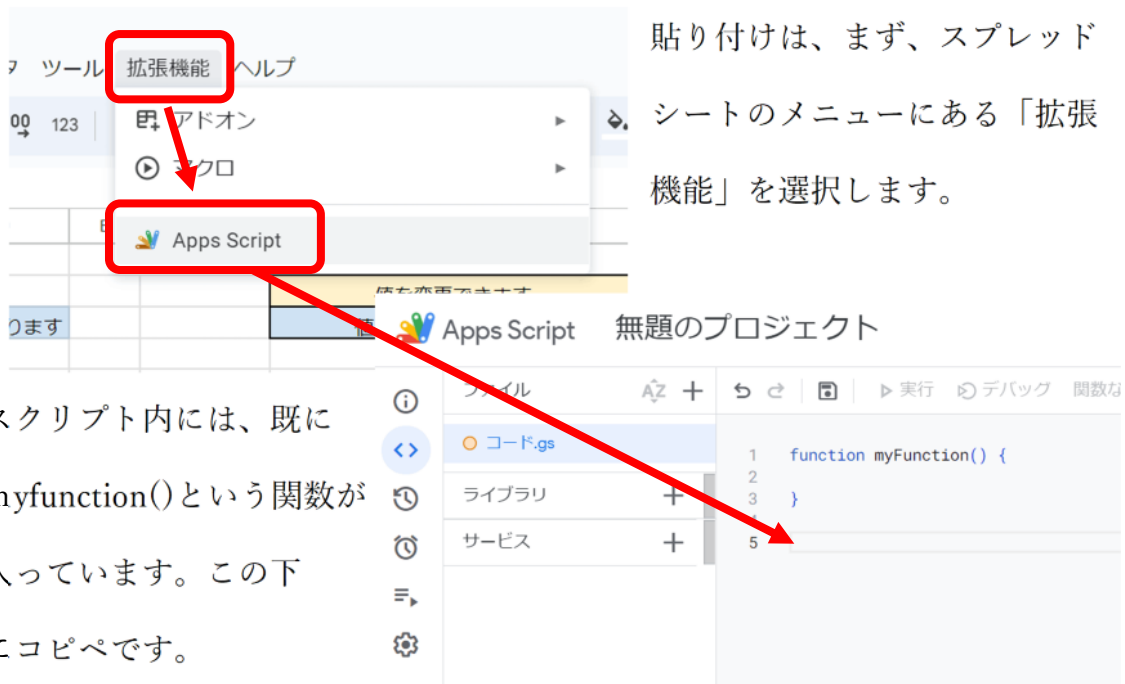


- ⑤ 解凍したファイルの「Code」を、パソコン上のテキストエディタで開きます。表示されたコードをクリップボードにコピーしてください。

```
code
ファイル 編集 表示
//ver1_5 課題作成関数の中に、メニューからの分岐を設けて、一つの関数で全ての課題を作成できるように
//ver1_6 表計算ソフトのsheetsを指定して、問題を作成できるようになった。
//ver1_6_3 先頭番号で出題範囲を指定できりょうに改善
//ver1_6_4 Form内でのrandom機能の確認
var ei_nichi=0;
var ino_rand=0;
var c_or_w=0;
function onOpen() {
  var ui = SpreadsheetApp.getUi();
  var menu = ui.createMenu('FORMの試験を作成');
  //menu.addItem('出題順で作成', 'createForm1');
  //menu.addItem('ランダム順で作成', 'createForm2');
  menu.addSubMenu( // サブメニューをメニューに追加する
    .addItem("出題順", "createForm1") // UIクラスからメニューを作成する
    .addItem("ランダム順", "createForm2") // メニューにアイテムを追加する
  )
  menu.addSubMenu( // サブメニューをメニューに追加する
    ui.createMenu("英語>日本語 選択肢") // UIクラスからメニューを作成する
    .addItem("出題順", "createForm3")
    .addItem("ランダム順", "createForm4") // メニューにアイテムを追加する
  )
  menu.addSubMenu( // サブメニューをメニューに追加する
```

一番下まで選択して、右クリックしてコピーです。
これで、クリップボードに複製されます。

- ⑥ スプレッドシートに戻り、「拡張機能」から「Apps Script」を選択し、クリップボードにコピーしたコードを Script として貼り付けます。



貼り付けは、まず、スプレッドシートのメニューにある「拡張機能」を選択します。

スクリプト内には、既に myfunction() という関数が入っています。この下にコピペです。

```
1 function myFunction() {
2
3 }
4
5 //ver1_5 課題作成関数の中に、メニューからの分岐を設けて、一つの関数で全ての課題を作成できるように改良した
6 //ver1_6 表計算ソフトのsheetsを指定して、問題を作成できるようになった。
7 //ver1_6_3 先頭番号で出題範囲を指定できりょうに改善
8 //ver1_6_4 Form内でのrandom機能の確認
9
10 var ei_nichi=0;
11 var ino_rand=0;
12 var c_or_w=0;
13
14 function onOpen() {
15   var ui = SpreadsheetApp.getUi();
16   var menu = ui.createMenu('FORMの試験を作成');
17   //menu.addItem('出題順で作成', 'createForm1');
18   //menu.addItem('ランダム順で作成', 'createForm2');
19   menu.addSubMenu( // サブメニューをメニューに追加する
20     ui.createMenu("英語>日本語<選択肢") // Uiクラスからメニューを作成する
21     .addItem("出題順", "createForm1")
22     .addItem("ランダム順", "createForm2") // メニューにアイテムを追加する
23   )
24   menu.addSubMenu( // サブメニューをメニューに追加オス
```

下の方に貼り付けた後、一番上の function myFunction () { }の3行は不要になりますので削除し、最初の「//ver1_5…」の行が1行目になるように BackSpace などで調整します。

その後、このスクリプトを保存します。保存しないと、次の実行ができなくなりますので、注意して下さい。

無題のプロジェクト

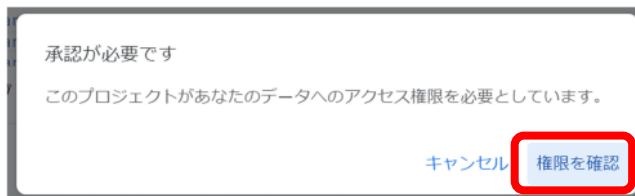


- ⑦ 次に「実行」ボタンを押して、Script の最初の実行を行います。最初の実行では権限やアクセス権の許可などの確認作業が必要になります。

無題のプロジェクト



- ⑧ 権限の確認の作業がすべて済みましたら、Script が実行できるようになります。



最初に、「承認が必要です」の警告が出ますので、「権限を確認」に進みます

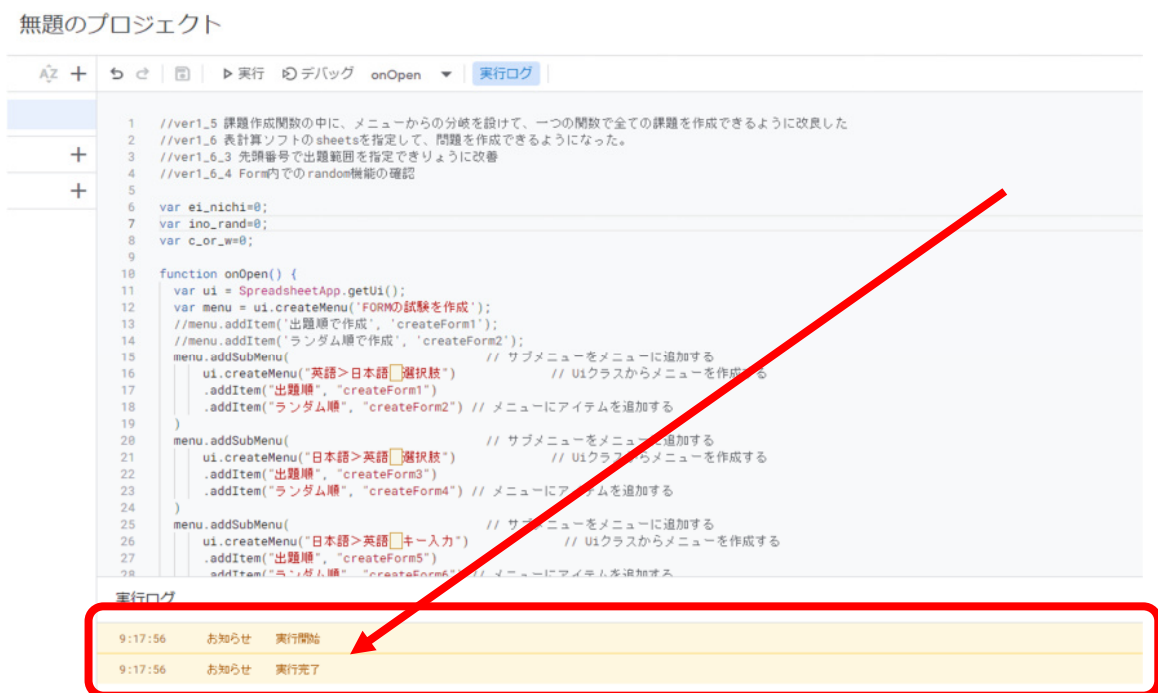


次に、Google ID が複数ある場合などに、どの ID を使うのかの確認が入ります

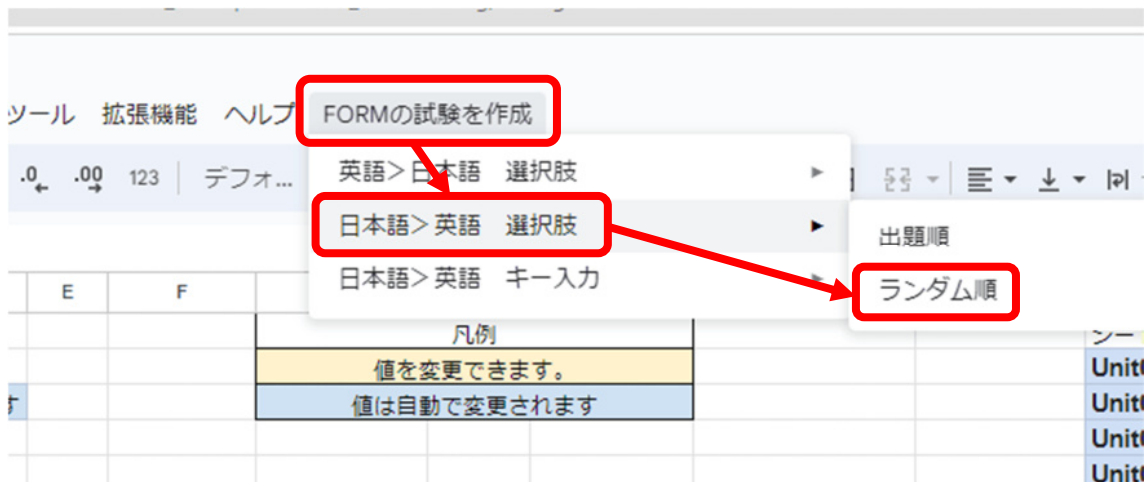


最後に、スプレッドシートからのリクエストを許可して終わりです。

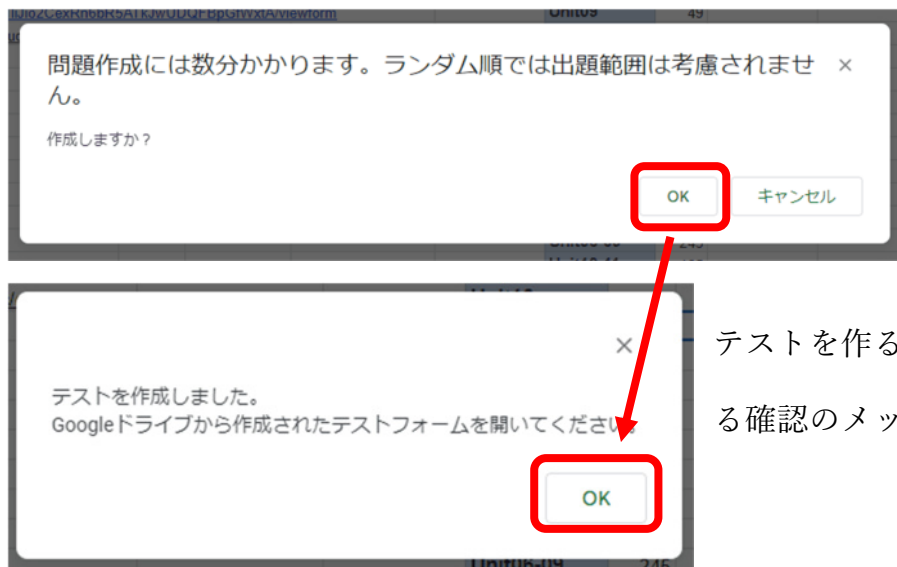
無事に権限が確認されたら、Script の下の方に、「実行開始」、「実行終了」の文字が表示されます。これで、権限の確認は終了です。



- ⑨ スプレッドシートに戻り、新たにメニューバーに表示された「FORMの試験を作成」の試験を作成」から、希望する試験の形を選択して作成します。



※テストの作り方は、もう一つのマニュアル「GASによるテストの生成3」に詳述されています。詳しくは、そちらをご覧ください。



テストを作る過程で表示される確認のメッセージです。

⑩ 作成されたテストの Form はマイドライブの中に保存されます。



マイドライブはネットワーク上のドライブですので、ブラウザでの更新が間に合わずに表示されない場合があります。作成した Form のテストがマイドライブに見つからないときは、ブラウザのリロードをかけてやると見つけることができると思います。

テストの作成にあたって必要となる細かい設定の仕方は、マニュアル「GAS によるテストの生成 3」に記述しましたので、そちらもご覧ください。